

婦人と子ども

第十三卷 第七號

子供を取り扱ふ人の氣分の持ち方

東京高等師範學校教授 乙 竹 岩 造

一體人間は、總じて周圍の境遇や、人々から、多少の影響を受ける傾きのあるのであるが、殊に、子供といふものは周圍の影響をうけて、うつりかはる力の強いものである。取り分け、始終自分が取扱はれて居る人々の氣分を受けて、いろいろに變る傾きをもつて居ることが仲々著しいやうに思ふ。たとへば、甚だしい神経質のお母さんに始終養育せられて居る子供は、いつの間にか、その氣分が移つて、自ら^{おのづか}神経質になりやすい傾きがあるやうであるし、ゆつくりとした氣性の子守に始終守りせられて居る子供は、たとひ、その氣質が素

と敏なるものであつても、だん／＼とゆつくりして來て、おちつきが出來て來るやうな傾きがある。それ故に、子供を始終取扱ふ人の、氣分のもち方といふものは、なかく大事な事であらうと思ふ。

よく世間にあるが、神経質の親たちになると、子供を可愛がる時には、いろんなものを買つてやるとか、子供の要求する事は理も非もなく聞いてやるとか、過度の鍾愛を加へるが、さて、どうかして氣に入らない事があると、急に雲行きが變つて、こゝろはむやみに叱つたり手ひどい取扱ひをした

りする、甚だしきに至つては、自分の怒を子供にうつして、酷く當たるやうな事をする場合も無いではない。かういふ親たちに育てられて居る子供の有様を見ると、とかく過敏で始終氣分がいらいらして居つて、何となく神經質の性質をあらはして居るやうになる。即ち、始終自分を取扱つてくられて居る人の氣分が、しらすくの中に、うつゝて居るのではなからうか。

私は、嘗て轉人療法といふ事を話したことがあつた。或種の病氣にかゝつたものとか、または、總じて病氣揚句の人々には、土地をかへると、大層効果が多いといふ事があるので、これが、世に所謂轉地療法であるが、丁度之れと同じく、子供の氣質上の病的現象であるとか、病的といふ程で無くつても、氣質上に著しき弱點のあるものなどは、其周圍に始終居る人をかへる事によつて、よほどの度までなほさるゝ事が出来るやうに思ふのである。これと呼んで轉人療法と言ふのである。子供

につけておく子守であるとか、始終子供の世話をする者などに就いては、家庭においても、父母たるものゝ一考すべき事ではあるまいか。

しかし、人の氣質といふものは、皆各異る所のあるもので、長所もあれば、短所もあり、その上これは生れつきにも因る事であるから、相當の歳に成つて居るものゝ氣質を、さう容易に換へられるものではない。けれども人は心の持ちやうで隨分變はるものであるから、心がけが大事であると思ふ。殊に子供を始終取り扱ふ方や、絶えず子供に接して居る人々は、自分の氣分のもち方の上に、出來得る限り注意をする必要があり、然かもそれは仲々大事なことであり、自分は思ふ。

要するに、子供を取扱ふ人の氣分の持ち方は極めて大事なことである。感情の圓滿な、氣分のゆつたりとした、譬へて言へば春風駘蕩たるやうな有様であるやうに心掛けることは、その事自身だけでももう幼兒の取扱には善い影響のあることであ

らうと思ふ。父母にも大切なことである。教師にも大事なことである。總じて子供を取扱ふもの、

心掛くべき一つの要點ではあるまいか。

榎山督學官の「教育系統上幼稚園の保つべき地位」

を讀みて所感を述べ併せて御示教を乞ふ

東京府女子師範學校
附屬小學校主事

日 田 權 一

一 お願ひ

この間本誌の編輯主任の倉橋さんから何か寄稿せよとの御話があつた、が別に御話を申し上げる程のことも持ちませんので私共の小學校と幼稚園との聯絡について多少苦心して居ることもありませんから、何かその邊のことについて報告を致しませうと御返事をして置きました。其後へ本誌の六月號を送て戴きました。見るとフレール會の總會では是非拜聴したいと思つて生憎聴くことの出來

なかつた榎山先生のこの御講演が戴つて居るので喜んで拜讀し誠に有益に感じました。所が問題は同じく幼稚園と小學校との聯絡に關係があり、且つこれ迄私共の考へて居た事と多少方向を異にして居る様にもうかがはれる節もあり、又一層精しい説明をして戴きたい點もありますので前に申し上げた題目を代へることにした。この御講演に對して私共の様な疑問を以て居るものも他にあらうかと存じますから榎山先生には又適當の節本誌に於て御示教を下さる様に御願ひ致します。